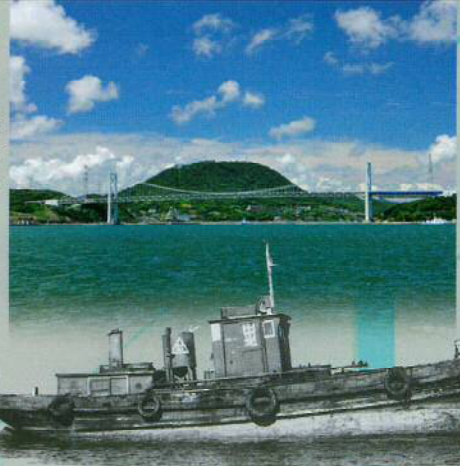


**1 関門海峡**

本州と九州を隔てる幅約700メートル(関門橋付近)の海峡を1日約700隻の船が通ります。出光商会の発展のきっかけとなった海上給油の舞台となりました。



計量器付給油船



当時の第一船溜まり

現在の第一船溜まり



**2 第一船溜まり**

出光商会も第一船溜まりから堀川(運河)を利用して、油を運んでいました。2つの船溜まりを結んでいた堀川も、現在は道路になっています。

**3 鎮西橋**

第一船溜まりのすぐ東、堀川に架かっていた橋で、日本銀行が袂にありました。今は橋柱だけが残っています。

**4 日本銀行跡(現在は栄町公園住宅)**

1964(昭和39)年に小倉に移転するまで、金融の中心でした。1階生涯学習センターの玄関横には、記念碑があります。

**5 棧橋**

出光氏は、連絡船で下関に渡り、漁業会社に安価な燃料油(軽油)の利用を提案して、成功しました。現在は、対岸の下関と約5分で結ばれています。

大連航路上屋付近のにぎわい

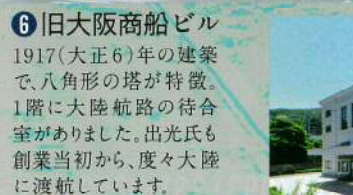


**7 旧大連航路上屋**

1929(昭和4)年、旅客の待合室として建てられました。丸みのあるアルデコ調の装飾が特徴です。

**6 旧大阪商船ビル**

1917(大正6)年の建築で、八角形の塔が特徴。1階に大陸航路の待合室がありました。出光氏も創業当初から、度々大陸に渡航しています。



# 海賊とよばれた男 青春の舞台



海峡ミュージアム

**8 門司港駅**

九州の鉄道の起点、0哩標があります。改修中の駅舎は、1914(大正3年)に建てられたもので、それまでは200mほど東(山)寄りがありました。

**10 バナナの叩き売りの碑**

日本でバナナの本格輸入が始まったのは、出光商会創業の頃。門司港駅前から山手に延びる棧橋通りでは、船中で熟れたバナナを早く売りさばこうと、バナナの叩き売りが生まれました。

**9 旧門司駅跡(九州鉄道記念館)**

旧駅跡には、旧0哩標があります。創業した頃、出光氏は、ここから筑豊の炭鉱に向かい、機械油の販売を試みました。

**17 栄町銀天街(みなと祭の出光氏)**

「しゃぎり隊」に参加した出光氏は、一際目立ち、西洋人のおもちゃといわれます。毎年5月に催される門司みなと祭は、出光氏が商工会議所会頭の時に、創設したものです。

**11 甲宗八幡宮**

石段上の鳥居は、出光氏が奉納したもので、「甲宗八幡宮」の文字は直筆です。横には石碑もあります。



**12 甲宗八幡下倉庫**

出光商会も、堀川倉庫、甲宗八幡下倉庫など、概ね堀川沿いに倉庫を設けていました。



**16 西本町本店**

(写真左。右は明治屋)

1922(大正11)年、出光商会は、二十三銀行(大分銀行)ビルの2階に再移転し、以来1965(昭和40)年まで、出光興産株門司支店として、入居していました。明治屋と並んでいました。



**15 出光商会創業の地**

1911(明治44)年、出光商会を創業した場所には、説明版が設置され、いつもきれいに清掃されています。



**18 三宜楼**

山手の清滝方面は、料亭文化が花開いた界隈です。中でも三宜楼は、出光氏などの財界人が好んで通ったといわれます。2014(平成26)年から、一般公開されています。



参考:百田尚樹「海賊とよばれた男【上】」  
柳田桃太郎「門司における出光佐三翁の思い出」  
出光興産株「出光100年史」